

チェルノブイリ 30年

東日本大震災 5年



ピースオンウィング in TOKYO

～翼に平和をのせて～

～核の悲劇を繰り返さないために～



佐々木祐滋

スライド講演
「禎子の千羽鶴」

ナターシャ・グジー

& 〈歌・バンドウーラ〉

飯島晶子 〈朗読〉

広河隆一

スライド講演
「チェルノブイリと福島」



歌と朗読でつづるチェルノブイリ
「ふるさとを伝えたい想い」



予定企画

パネルディスカッション
「広島 福島
チェルノブイリから
何を学ぶか」

ロビー展示
「広河隆一写真展」

ウクライナの子どものための
メッセージ入り折り鶴の展示

ほか



6月27日〈月〉 18:00～20:00 受付開始 17:00

入場料 2,000円 (全席自由/小中学生は無料)

入場料は会場受付 このイベントの収益はすべて、「ピースオンウィング・プロジェクト」にてお支払いください 「DAYS被災児童支援募金」、そして、熊本震災支援に使用されます。

会場 六本木ヒルズ「ハリウッドホール」

東京都港区六本木6-4-1六本木ヒルズ ハリウッドビューティプラザ5F
◆東京メトロ日比谷線六本木駅1C出口徒歩0分 ◆都営地下鉄大江戸線六本木駅3出口徒歩4分

お申し込み



①お名前 ②ご連絡先 ③人数 を明記の上 メールまたはFAXにてお申し込みください。

Email : kikaku@daysjapan.net / FAX : 03-3322-0353



ナターシャ・グジー Nataliya Gudziy

ウクライナ生まれ。ナターシャ 6 歳のとき、1986 年 4 月 26 日未明に父親が勤務していたチェルノブイリ原発で爆発事故が発生し、原発からわずか 3.5 キロで被曝した。その後、避難生活で各地を転々とし、キエフ市に移住する。ウクライナの民族楽器バンドウラの音色に魅せられ、8 歳の頃より音楽学校で専門課程に学ぶ。1996 年・98 年救援団体の招きで民族楽団のメンバーとして 2 度来日し、全国で救援公演を行う。2000 年より日本語学校で学びながら日本での本格的な音楽活動を開始。その美しく透明な水晶の歌声と哀愁を帯びたバンドウラの可憐な響きは、日本で多くの人々を魅了している。2005 年 7 月、ウクライナ大統領訪日の際、首相官邸での夕食会に招待され、演奏を披露。コンサート、ライブ活動に加え、音楽教室、学校での国際理解教室やテレビ・ラジオなど多方面で活躍しており、その活動は教科書にも取り上げられている。

<http://www.office-zirka.com/>



飯島晶子 Akiko Iijima

絵本から古典まで「幸せは声に宿る」をモットーに、ジャンルを超えての朗読コンサートを企画。被爆ピアノコンサート「未来への伝言」はライブワーク。TV・教育用ナレーション等多数。NHKE テレ「お伝と伝じろう」ゲスト出演。「声を出せば脳はルンルン」清流出版「伝わる声の出し方話し方」日本実業出版等多数。CD「声にして楽しむ源氏物語」キングレコード、震災ポエム「海をうらまない」、未来への伝言「原爆を裁く」リリース。NPO 日本朗読文化協会理事、日本大学芸術学部卒業、VoiceK 代表

<http://voicek.co.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/akikovoicex>



佐々木祐滋 Yuji Sasaki

福岡県博多区出身のシンガーソングライター。広島平和記念公園にある原爆の子の像のモデルである佐々木禎子の甥。被爆二世でもあり、特定非営利活動法人 SADA KO LEGACY 副理事長として、世界へ伝わる禎子ストーリーを通じて禎子の遺品の折り鶴を世界各国へ寄贈し、歌を交えた講演活動や折り鶴でつながるリサイクルプロジェクトを展開しながら「誰もが夢や希望を叶えられる世界」の創造を目指している。バンドのボーカルとして活動中、戦争体験者の方々に「あなたにも禎子の DNA が入っているのだから、禎子の物語を語り継ぐ責任がある」と告げられ、2000 年に自身がボーカルを務めるバンド「GOD BREATH (ゴッド・ブレス)」を結成し、叔母である禎子を語り、歌を通じて命の尊さを訴える活動を始める。その後、禎子をモチーフにした楽曲を作り、世界各地で高い評価を得る。また全国の小中学校や各地の平和イベントにも参加。2009 年からはソロ活動をスタートさせ、禎子の思いを綴った曲「INORI」が 2010 年 7 月 21 日にソニーミュージックレコーズよりメジャーデビュー。同曲をカバーしたクミコさんは、2010 年 NHK 紅白歌合戦にこの「INORI」で初出場し、ヒットメーカーの仲間入りを果たした。



広河隆一

Ryuichi Hirokawa

フォトジャーナリスト 月刊誌 DAYS JAPAN 発行人

DAYS 被災児童支援募金代表 / 認定 NPO 法人「沖縄・球美の里」名誉理事長

チェルノブイリ子ども基金設立代表 / パレスチナの子どもの里親運動設立代表・現顧問

1967 年に早稲田大学を卒業後イスラエルに渡ると同時に戦争が始まる。帰国後フォトジャーナリストとしてパレスチナ問題、チェルノブイリ問題などを取材。チェルノブイリの被災地、ウラルの核惨事現場などは、世界に先駆けて報道。講談社版の「DAYS JAPAN」の核被害報告で 89 年講談社出版文化賞を受賞。2004 年に報道写真月刊誌「DAYS JAPAN」を再刊し、編集長を務める。3・11 後は震災翌日から福島県に入り、取材を開始。同時に DAYS 放射能測定器支援募金、DAYS 被災児童支援募金を立ち上げる。12 年に福島の子どもの保養施設として沖縄県久米島に認定 NPO 法人「沖縄・球美の里」設立。パレスチナの写真報告で 2003 年に土門拳賞を受賞。

<http://www.hirokawaryuichi.net/>

ピースオンウィング

～翼に平和をのせて～



チェルノブイリ 30 年 東日本大震災 5 年

園本 ウクライナ
平和交流 プロジェクト



ナターシャが来日した 16 年前、広島原爆の子の像のモデルになった、佐々木禎子さんの折り鶴（実物）をお父様・繁夫さんと、お兄様・雅弘さんから頂きました。それからは、ナターシャの日本での音楽活動の支えとして大切にしていたが、チェルノブイリ 30 年を迎える今年、ナターシャは、禎子さんの甥である佐々木祐滋さんとともに、その折り鶴をウクライナへ日本からの平和と友好の印として、寄贈することに致しました。ピースオンウィングは、禎子の折り鶴の寄贈を中心とした、日本-ウクライナ平和交流プロジェクトです。

facebook

✓ <https://www.facebook.com/peaceonwing/>

✓ [ピースオンウィング](#) で検索

サポーター募集中

このプロジェクトはサポーターの皆様の賛助金により運営される非営利プロジェクトです。